

講義名：世界市民－近代日本の戦争と社会　＜春＞		ナンバリングコード：0	
担当教員名：島田　克彦			
研究室：聖アンデレ館8階830号室		オフィスパワー：火曜2限	メールアドレス：　shimadak@andrew.ac.jp
授業形態			
『講義』			
講義・演習概要			
この授業では、近代日本社会が経験した戦争の歴史を講義します。第二次世界大戦の基本的な性格として、戦争による一般市民の犠牲者数が軍人を大きく上回ることが挙げられます。この授業では、大戦末期の大阪大空襲と沖縄戦を取り上げ、その実態、歴史的背景、および戦後社会へのつながりについて、具体的に考察していきます。かつて戦争を経験した日本社会について学ぶことで、歴史を生きた人々の生のあり方にも触れてほしいと思います。その学びが、本学の養成する「世界の市民」に近づくための糧となるでしょう。			
学習目標			
1. 大阪大空襲と沖縄戦に関する基礎知識を身につけること。 2. 戦争体験者の証言に触れて、人々の生のあり方を理解すること。 3. 戦争の経験を基礎として成り立つ日本社会のあり方について、自分なりの意見を持つこと。			
講義・演習計画			
【第1回】オリエンテーション　授業の進め方や期待する学びについて伝達します。			
【第2回】授業の導入			
【第3回】大阪大空襲（1）　第二次世界大戦末期の本土空襲			
【第4回】	大阪大空襲（2）	どのように行われ、どのような被害が生まれたか	
【第5回】大阪大空襲（3）　都市無差別爆撃の歴史的位置			
【第6回】大阪大空襲（4）　空襲体験者たちの戦後			
【第7回】中間まとめ			
【第8回】沖縄戦（1）　民衆を巻き込んだ地上戦			
【第9回】沖縄戦（2）　生きのびる人々			
【第10回】沖縄戦（3）「銃剣とブルドーザー」―戦後の沖縄			
【第11回】沖縄戦（4）　沖縄の大地と米軍基地―戦後の沖縄			
【第12回】中間まとめ			
【第13回】戦後社会の出発（1）			
【第14回】戦後社会の出発（2）			
【第15回】試験とまとめ			
成績評価の方法			
試験	40%	レポート	30%
出席	30%		
コメント	試験は、授業内容に関する論述とします。 レポート課題を2回予定しています。2回とも提出することが単位修得の条件です。 「出席」は「平常点」と理解すること。毎回の課題を提出し、相応の結果を出すことで平常点が蓄積されます。 着実に、粘り強く、学習を積み重ねていきましょう。		
テキスト			
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
著書		タイトル	
ISBN		出版社	
教科書購入区分	選択なし	備考	
参考文献			
小山仁示『（改訂）大阪大空襲―大阪が壊滅した日』東方出版、1985年 江口圭一『大系日本の歴史14　二つの大戦』小学館（ライブラリー版）、1993年 荒井信一『空爆の歴史―終わらない大量虐殺』岩波書店（新書）、2008年 東京大空襲・戦災資料センター編『東京・ゲルニカ・重慶』岩波書店、2009年 新崎盛暉『現代日本と沖縄』山川出版社（日本史リブレット）、2001年 林博文『沖縄戦と民衆』大月書店、2001年 木畑洋一『第二次世界大戦―現代世界への転換点』吉川弘文館（歴史文化ライブラリー）、2001年 木畑洋一『二〇世紀の歴史』岩波書店（新書）、2014年 その他、適宜紹介します。			
事前および事後学習の指示　（事前学習　30　時間　・事後学習　30　時間）			
配布資料をもとに次の授業について予習すること。その達成度を授業開始時の課題で自己チェックしていきます。			
その他備考（担当教員用）			
キーワード			
備考（管理者用）			